

科技高 いきもの記

Vol.68 2022.1.20

生物教員 佐藤龍平

共通テストデビューを果たした最強生物

クマムシ

このタイミングでクマムシを紹介する理由は、分かる人には分かるだろう。そう、つい先日行われた**大学入学共通テスト**に、なんとクマムシが登場したのだ。しかも「生物」ではなく「英語」でだ。問題文にはクマムシの絵が添えられていて、知らない人は「何だこの生き物は?!」と思ったに違いない。一方で、生物選択者はニヤリとしたことだろう。

クマムシは**最強生物**という肩書で一世を風靡したので、その名は結構一般人にも知れ渡っている。ぬいぐるみまで売っている（生物室にある）。この生き物は驚くべきことに、**カラカラの脱水状態になったとしても、水をかければ復活する**のだ。人間で例えれば、ツタンカーメンのミイラが水で復活するようなものだ。…怖い。

しかも、クマムシはこの脱水状態（タル型、tun）になると、**150℃の高温でも-273℃の超低温でも生存し**、さらに、強力な放射線や紫外線を浴びせても、やはり水をかければ何事もなかったかのように復活するのだそう。だから宇宙空間でも宇宙服なしで生きられる。これが“最強”たる所以だ。（ただし、指でつぶせば簡単につぶれて死ぬ）

ところでこのクマムシ、いったいどこにいるのだろう？最強生物といくらだからさぞかし特殊な環境で、特殊な生き方をしているのだろうと思われがちだが、**実はどこにでもいる超身近な生き物**だ。ということで、クマムシ探しにでかけてみよう！

職員室を出て歩いて10秒、今回は体育棟と部室棟の間を探してみた。直射日光が当たらない薄暗い場所なので、コケがたくさん生えている。クマムシはコケをすみかにしているものがいて、**とくにギンゴケからよく見つかる**。ギンゴケをシャーレに取って水をかけてしばらく放置する。根気強く顕微鏡で探すと……**いた！足をバタバタさせている細長い生物！**これがクマムシだ！大きさは1mm以下なので、慣れるまでは見つけるのがなかなか難しいが、一度見つかればどんどん見えてくる。コケの中にはクマムシ以外にも線虫やダニなども見つかるから楽しい。ギンゴケさえあれば、この**“Extraordinary creature”**（風変わりな／驚くべき生物）は街中でも簡単に見つかるので、みなさんもぜひクマムシを探してみてください。

ところで、体育棟横でスコープ片手に壁からコケをはぎ取っていたら、ちょうど体育の授業が終わった1年生と鉢合わせてしまい、「不審者かと思いました！」と笑われてしまった。これからはもう少し周りの目を気にしようと思う。



体育棟横のギンゴケ

スロープのコンクリートをじっくりと見てみると、コケがたくさん生えたエリアに明らかに白っぽいコケがあることに気付く。これがギンゴケだ。



学校のギンゴケから見つかったクマムシ

(オニクマムシ *Milnesium tardigradum*?) 体長約0.5mm
クマっぽい見た目(?)から名がついた。英語ではWater bearだが、共テの問題文では「short cucumber (短いゅうり)」みたいだと表現されていた。専門的にはTardigradesといい、緩歩動物門に属する。「They live almost everywhere.」と紹介されている通り、コケに限らず深海や6,000m級の山の上、氷の下や温泉、砂漠からも見つかるようだ。



トゲクマムシの仲間 体長約0.2mm
クマムシは8本の脚の先に大きなツメ (claw) をもつ。



ギンゴケに乗るクマムシ

コケを食べるものや、センチュウなどを食べるものもいるようだ。



からだを伸ばした様子

水の中ではよく動き回るが泳げない。